

余市サマーキャンプ!!!

夏休み直前の7月17, 18日の日程で、1学期最後の行事、余市教育福祉村でのサマーキャンプを行いました。

余市好きの多いスクール生。事前学習では余市の自然・産業・歴史、余市近郊の観光などについて調べ、出来上がった“しおり”は18ページと立派なものでした。

キャンプ1日目は農作業・海水浴・バーベキュー、夜には花火と肝だめし、2日目は(朝釣り)・さくらんぼ狩り・ロング滑り台・忍路ストーンサークル・小樽散策と、夏らしい企画が盛りだくさんの2日間でした。



花火を楽しんだ後、スイカをほおぼる生徒たち



草取りをしながら、作物の成長と豊作を願う一同。

楽しい思い出が出来た余市サマーキャンプ。2学期に入ると、ビックイベントの修学旅行に向けての準備が始まります。1学期の様々なイベントで力をつけた生徒たちが、どのような活躍をしてくれるのか、とても楽しみです。

(記:鈴木美彩子)

*生徒たちの「感想文」より

(農作業では)雑草がめっちゃ多くて正直やる気がなくなったけれど、じゃがいものふさふさ感がすごくて、ちゃっちゃと終わった。途中は海に行きたすぎて弱音を吐き気味だった(笑)

(A. 中3. 女子)

キャンプは全体通して楽しくて、特にバーベキュー、きもだめしが楽しかった。バーベキューは肉をたくさん食べたり、鉄棒とかして遊んでいた。

(R. 中3. 男子)

余市のセンターハウスの1階のトイレで、カマドウマを見てびっくりしたけど、殺虫スプレーでやっつけて、それをAくんが外に捨ててくれました。ぼくは、とてもコワイ気持ちでした。

(E. 中卒. 男子)

2学期は、勉強と学生週と工作と(色々な)体験を頑張りたいです。

(Y. 中1. 女子)

2学期は、勉強はほどほどにしてスクールのプランターでいろいろと作りたい!

とくにトマトとか。(M. 中3. 男子)

輝け子ども達! ~北海道自由が丘学園の教育実践から



さっぽろ子育てネットワークの「ニュース」100号記念号に寄稿したものを紹介します。自由が丘スクールの行事の取り組みや生徒動向などを参考にして下さい。

(本号は一部概要、2文脈目を小ポイントで字数調整)

◎月寒スクールは、各教科と併せて体験型の総合学習や生徒が企画運営する行事を重視しています。2012年3月「卒業のつどい」。日本語(国語)授業でまとめられたミニ文集『芽生え』に記載された生徒の文を紹介します。(他に在校生やスタッフからの思い出・励まし・イラストなどが記載されている)

未知の光 (在校生)

いままで 笑った分だけ なみだが出る
けんかした分だけ たのしくなる
はじめて会った時のような
未知の光が もうすぐ みんなを包みこむ
後ろをふりむくなんて 二人らしくない
早く はしりだして!

将来の夢 (卒業生)

- パソコンを操作することが大好き・夢はコンピューター・プログラマーになることです。
- 僕の夢は、イタリアン・シェフになることです。ダンスもやりたいので両立させたい。
- いまのところ、気象関係か、技術関係の仕事をしたいと思っています。

卒業・終業にむけて、3学期は、①オリジナルアルバム、②記念グッズ=ダンボールを加工し卒業生が中に入る大きなギフト箱、③会場飾り・看板、などを表現科授業の一環として行い、分担制作して当日を迎えます。前日には、教育大学釧路校の学生・教員が10名規模で来訪し(14年前の夕張スクール以来、毎年4回の授業実習を継続)私達の年度区切りに立会います。当日は朝から集合して昼食とギフト箱に入るケーキを作り、午後「つどい」本番です。

生徒一人ずつ異なる内容の卒業・終業証書、生徒達の一言、父母・スタッフの発言に加えて、生徒有志によるダンスや音楽発表、大学生からの一年間のスクール映像上映・創作合唱・メッセージと続きます。OBやOGも10名近く参観してく

れ、2時間以上にわたる笑い涙の思い出深いイベントとなりました。

◎北海道自由が丘学園は、暗記型受験学力や画一・管理主義に拠らない人間形成教育を掲げています。20年以上前の市民研究会より始まり、新しい学校づくりを目指し1998年から生徒たちと「自由と協同」の実践普及活動(=自由が丘ヒューマンラスト運動)を展開してきました。これはNPOの会員はもとより多くの支援者=民間教育・経済・科学・地域婦人団体や個人とのつながり=協同によって持続できたことでもあり、とりわけ、研究者・大学機関との共同作業、地域に公開・公表された取り組みや施設運営などは、民間教育機関に蓄積された共有財産として大事にしていきたいものとなっています。

また環境教育でも、14年にわたる余市教育福祉村での農業実習、授業「地球に生きる科」の毎週展開や、地球温暖化対策の具体取り組みとして自然エネルギーを導入した『エコハウス(スクール)』を追求しており、これらは2010年に北海道「グリーンビズ事業所」認定、2012年には札幌市「環境賞」を受賞しました。(約70%のCO2削減)ペレットストーブやソーラーパネルは地域市民への公開サテライトとなっており、冬季暖房の際には、生徒達や父母から「木の燃える匂いが山小屋のよう」との感想が寄せられます。

◎私たちのスクールには、主に中学生、年度により小学生・中卒者が悩みも抱えながら、お互いに励ましあって勉学や行事を“磨いて”います。そして1年~数年の在籍を通じて、自ら決めた進路・進学に向かっていきます。(多くは市内か近隣の高校に入学。中には高認試験に取り組む者もいます)

今日の社会環境のもとで大人も子どもも厳しい競争と格差に直面しています。教育では特に不登校生徒の学習権・幸福希求権等が侵害されており、学び成長する権利=子どもの権利条約に添った居場所・学び舎は待たなしのテーマの一つです。

未来の担い手である彼(女)らの希望や生活条件に適った学び方・成長を支援することを、地域社会の大人の共通する作業として共に推進していきましょう。
[代表・吉野正敏]